

2023年度 中京大学チャレンジ奨励金 最終報告書

2024年 2 月 9 日

学部・学年 国際学部 3年

氏名 井上沙英子

1. プロジェクト名

エコ染めワークショップでサステナブルファッションについて学ぼう

2. 活動期間

2023年 5月 29日 ~ 2023年 1月 31日

3. 主な活動場所

大学、イベント出展

4. 参加者 4 名（「7. 参加者名簿」に参加者氏名等を入力してください）

5. 予算・使用経費等（足りない場合は各自で列を足してください）

費目	品名・内容	予算金額	執行金額
例) 消耗品費	文房具、教科書、材料費	100,000 円	85,000 円
消耗品費	材料費	170,430 円	122,455 円
旅費交通費	交通費	8,880 円	1,760 円
会費	外部ワークショップ参加費	10,000 円	9,950 円
	合計	189,310 円	134,165 円

6. プロジェクトの活動報告

◆プロジェクトにおける活動内容と目標

<活動内容>

廃棄物となる玉ねぎの皮から染め物を行うワークショップを開催し、座学として環境問題や衣料廃棄物についてのプレゼンテーションを行いました。

常滑市大野町のイベントでのワークショップ開催

大学祭でのワークショップ開催

地元東海市の農業協同組合でのワークショップ開催

ワークショップでは染め物体験と環境問題についての座学を行い、衣料廃棄物を減らすために、個人としてできることを参加者全員で考えました。大学祭ではブース出展としてワークショップを開催し、3日間で約70名の方に参加していただきました。

地元東海市の農業協同組合でのワークショップでは、婦人部の方を対象にエプロンの玉ねぎ染めを行いました。今後、婦人部で市のイベントに出展をする際に染めたエプロンを着用していただけることになり、市民の方にエコ染めを知ってもらうきっかけ作りができました。

岐阜県山県市での柿渋染め体験参加

岐阜県山県市の柿 BUSHI 様にご協力いただき、染め物体験に参加しました。天然染料を使った染め物の方法を見せていただき、プロジェクトの参考にしました。また、山県市の特産品を使った染め物で地域創生に貢献されているというお話を伺い、環境問題だけでなく地域創生にも繋げることができると新たな気付きを得ました。

SNS 運用

Instagram でアカウントを作成し、イベントの告知や様子、玉ねぎ染めの紹介を行いました。

教育後援会報の取材

校友会・教育後援会事務センターからの取材を受けました。

<目標>

衣料廃棄物が地球に及ぼす影響を知ってもらうこと

参加者が地球のことを考えるきっかけ作りをすること

参加者に自分自身の手で染色を行うことでものに対する愛着を感じてもらうこと

ものを長く使うことの楽しさを知ってもらうこと

◆中間報告時に抱えていた課題への対応結果

<中間報告時に抱えていた課題>

イベントの告知

ワークショップに参加者への告知が難しい。

学内でのワークショップ

学内でワークショップを開催する予定だったが、行う場所と日時が限られてしまい参加者を集めることが難しい。

<対応結果>

イベントの告知

学校祭ではフライヤーを作成し、学内に掲示した。

学内でのワークショップ

学内でのワークショップは行わず、愛知県常滑市でのイベント出展、農業協同組合でのワークショップ開催をした。

◆プロジェクトの目標達成状況（活動内容等を具体的に記入してください）

<達成状況>

衣料廃棄物が地球に及ぼす影響を知ってもらうこと

ワークショップで座学を行い、衣料廃棄物についてのプレゼンテーションを行いました。環境省によると、1日あたりに焼却・埋め立てされる衣類の総量は1日に約1300トンであり、大型トラック130台分に相当します。実際のデータを用いることで、より参加者に分かりやすいプレゼンテーションができました。ワークショップ参加者以外にも知ってもらうために、SNSを使用した発信を行ったらより多くの人に周知活動ができたと思います。

参加者が地球のことを考えるきっかけ作りをすること

プレゼンテーションの中で「私たちが地球のためにできること」として身近なところからチャレンジできる内容を紹介しました。実際に参加者から「自宅でもエコ染めをしてみたい」、「服をリサイクルに出したいと思った」という声をいただきました。ワークショップに座学を組み込んだことで、楽しく環境問題について考えることができました。

参加者に自分自身の手で染色を行うことでものに対する愛着を感じてもらうこと

エコ染めは自然の風合いが出て、人それぞれ異なるデザインに仕上げられるので、友人や家族との違いを楽しんでもらえました。ハンカチや巾着を染めてもらったため、日々使用することで変化していく様子を楽しんで、ものに対する愛着を感じてもらえると思います。

ものを長く使うことの楽しさを知ってもらうこと

今回のワークショップで染めたハンカチや巾着使い込むことで経年変化を感じたり、退色した場合にはもう1度染色することもできると説明をしました。自宅でも染め物を行っていただくとより楽しさを感じられると思います。

自己評価による達成度： 90 %

◆改善点、やり残したこと

今回のプロジェクトの改善点は集客の方法です。常滑市大野町でのワークショップでは、事前に Instagram アカウントでの告知を行いました。たくさんの方に知ってもらおうのが難しかったです。イベント主催者側の Instagram アカウントでも告知していただき、無事に地元の子供たちに来ていただきました。その時の反省点を活かし、大学祭でのワークショップではフライヤーを作成し、事前に学内に掲示しました。フライヤーによって予定を上回る多くの方に参加していただきました。

やり残したことは、参加者の声を集約しフィードバックに役立てるアンケート調査を行う予定でしたが、手が回りませんでした。

ワークショップ参加者以外にも環境問題や衣料廃棄物について知ってもらうために、SNSでの発信を行う予定でしたが、手が回りませんでした。

◆今回のプロジェクトを実施したことにより、どのような気づきを得たか

今回のプロジェクトは、多くの支えがあり成功したと感じました。イベントの出展の際には主催者の方と連絡を取り合い、コミュニケーションを円滑にはかかるとともに、イベント開催前から準備をして下さっている方々への感謝を感じました。

プロジェクトが進むにつれて、共に活動を行う仲間が増えました。それぞれの個性や強みに合わせた役割分担を行い、チームワークを培うことの大切さを感じました。また大学祭出展に際して判断に迷った時には学生支援課の方々からアドバイスをいただき、成功に導くことができました。

◆今後チャレンジしていきたいこと

(例えば、成果の活用・利用について、次回のプロジェクト活動に向けての抱負、卒業してからの展望等、自由に記入してください)

今後も Instagram アカウントで環境問題や衣料廃棄物についてより多くの方に知ってもらえるように発信を続けていきたいです。また、前回の東海市農業協同組合でのワークショップは婦人部の方のみの参加でしたが、農業協同組合の担当者の方から他の部の方も参加できるワークショップを再度開催してほしいとの声をいただいたので、来年度以降チャレンジしていきたいです。

◆実施結果（成果）

※必要に応じて写真・現物添付可。枠欄が足りなければ、追加してご記入ください。

私たちが地球のために
できること

03

01

1枚の服を
長く着る

02

服をリサイ
クルにだす

03

サステナブル
な素材を選ぶ

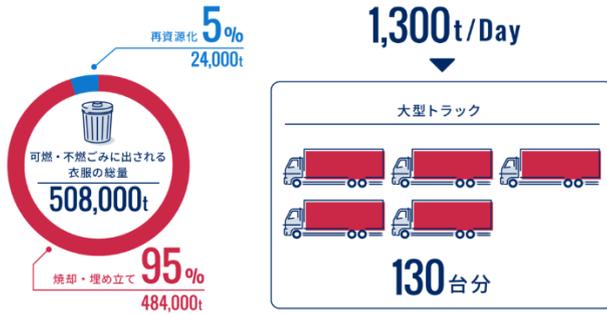
04

リメイクを
楽しむ

01

ごみに出される衣服の総量と処理方法

1日あたりに焼却・埋め立てされる衣服の総量(平均)



環境省 https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/

ワークショップで使用したプレゼンテーションの一部



常滑市大野町で行われたイベントの様子



大学祭でのワークショップの様子



東海市の農業協同組合で行われたワークショップの様子



岐阜県山県市での柿渋染め体験の様子

7. 参加者名簿 (足りない場合は各自で列を足してください)

番号	学籍番号	学年	氏名	備考
1		3	井上沙英子	
2		3	鳥居杏	
3		3	河邊美佑	
4		3	野村乙叶	
5				